



Title	受検者の立場から見た Contextual Sensitivity を「見える」化する適正テスト（ベトナム語版）
Author(s)	平野, 綾香
Citation	ISOコミュニティ通訳認証制度実績報告書. 2023, p. 3-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/92565
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

I. 認証者たちの分析

受検者の立場から見た Contextual Sensitivity を「見える」化する適正テスト (ベトナム語版)

大阪大学大学院人文学研究科特任研究員

平野綾香

はじめに

本稿は Contextual Sensitivity を「見える」化する適正テスト（以下、適正テストと称す）ベトナム語版について、受検者の立場から見た展望と課題を示す。林田（2022）によると、本適正テストは 2019 年度までは紙媒体で行われていたが、新型コロナウイルスの影響によってオンライン実施に切り替わった。すでに英語、中国語、ポルトガル語、ロシア語での実施実績があったが、ベトナム語での実施は本年度が初であった。

適正テスト実施形態概要

適正テストはオンライン会議ツール ZOOM を用いて行われ、自宅から受検した。問題は PowerPoint の画面で表示され、解答は Google Forms を介して選択式の解答を送信する形式であった。ベトナム語による音声の 3 回聞いた後にその音声のベトナム語スクリプトの穴埋め問題とスクリプトの日本語訳穴埋め問題に解答する大問が 2 つ、日本語による音声の 3 回聞いた後に日本語スクリプトの穴埋め問題とスクリプトのベトナム語訳穴埋め問題に解答する大問が 2 つという問題構成であった。

適正テストの特色

適正テストはベトナム語から日本語（またはその逆）への訳出能力だけではなく、ベトナム語の音声を聞いた後にベトナム語として正確に復元する能力が求められる。受検者は第一言語がベトナム語または日本語のどちらかに限定されているわけではなく、自身の第一言語を正確に復元できるかが評価基準の 1 つとなる。通訳者のトレーニング手法の 1 つに、聞こえた外国語を記憶して内容を変えずに声に出すリプロダクションという方法があ

るが、第一言語であってもこれを行うのは案外難しい。しかし、通訳の際は第一言語であるか否かに関わらず通訳する2言語を正確に理解することが求められる。適正テストは第一言語に関わらず通訳として必要な能力を評価できる点が最大の特色だろう。

適正テストの課題

元来紙媒体で行われていた試験をオンライン形式に変えているため、受検を通してオンライン形式ならではの課題を2点感じた。まず、問題の確認と解答送付の煩雑さである。現行の実施形式はZOOMの画面共有機能で表示された問題の解答をGoogle Formsを介して送信するため、ZOOMとGoogle Formsを同時に見られるように工夫するか、ZOOMとGoogle Formsの画面を行き来する必要がある。解答時間に限りがあるため、画面の行き来をしながらの解答は心理的に落ち着かないが、ZOOMとGoogle Formsを同時に見られるようにするとZOOMの画面上に表示された問題の文字が小さくなって判別が難しくなる。

2つ目の課題は、使用機器などの受検者の受検環境によって解答に際して不利益が生じる可能性があることである。ディスプレイサイズがより大きいパソコンからの受検であれば違ったのかもしれないが、筆者のディスプレイサイズ約13インチのノートパソコンでは画面共有された問題の文字が小さくて判別できないために、勘で答えざるを得ない設問があった。また、筆者は普段からマウスではなくトラックパッドを使用しているが、スクロールのためにトラックパッドに触れたのがクリックと判定され、明らかに意図しない解答を選択していることに途中で気がついたことがあった。

上に挙げた課題は、例えば解答のためのGoogle FormsのURLを予め受検者に知らせてタブレット端末等で見られるようにしておき、パソコンの画面にはZOOMの画面のみを表示させるようにすることである程度解決できるかもしれない。ただし、場所を選ばず受検できる現行の形式は、受検環境は受検者に依存する部分が大きく、結果に不公平が生じない受検環境をいかにして確保するかという別の問題についても今後考えなくてはならないだろう。

最後に

第一言語に関係なく通訳としての能力を図ることができる適正テストは非常に有用であると考え、今回の受検では現行の実施形式上の課題点を感じたが、受検者の第一言語に

左右されずに通訳に求められる能力を測ることができる基準は、今後さらに重要性を増すだろう。また、ベトナム人は在住外国人で2番目に多い規模であるにも関わらず、ベトナム語と日本語間の通訳能力に関する確かな質を持った試験は分野を問わずほとんどないのが現状である。本適正テストの発展が、日本に暮らすベトナム人と日本人の橋渡しとなる人材育成につながることを願っている。

参考文献：

林田雅至（2022）「まえがき：「適正テスト」が始まり，ISO コミュニティ通訳認証の一翼を担う」印南敬介編（2022）『ISO コミュニティ通訳認証実績報告書：2021 年度』大阪大学 CO デザインセンター. pp.1-2.

（投稿日：2023 年 3 月 17 日）

（受理日：2023 年 3 月 27 日）